



府中かんきょう市民の会

NPO法人 府中かんきょう市民の会会報
 2022年 秋号 10月12日(水)発行 通巻86号
 発行人 小西 信生 (府中市四谷6-19-20)
 TEL 080-5646-5524
 編集人 葛西 利武
 (府中市市民活動センタープラッツ登録団体)



わき水まつり
夏休み特別企画

魚と昆虫の野外観察会

鈴木淳佑

2022年7月24日(日)9:00～11:00、夏休み特別企画のわき水まつり(野外観察会)が行われました。市内でもコロナ禍による新規感染者が急増していましたが、感染症対策と熱中症対策を徹底し、3年ぶりの開催となりました。

大平充講師より紙芝居風の説明

講師である大平充農学博士を迎え、親子での一般参加12名、会員とその家族19名、総勢31名が参加しました。前半は府中用水に棲む水の生き物を観察し、後半は西府崖線を歩きながら昆虫類の探索を行い、約2時間の充実した内容となりました。

水の生き物の観察では感染症対策として参加者が用水に入ることは控え、事前に当会会員が捕獲した生き物をあづま屋前に設置した水槽に入れて展示する形式としました。生き物の名前は子どもたちがプレートに記入し掲示しました。

生き物の姿や動きを捉えられる即席の水族館が出来上がり、大平講師より生き物の特徴などが説明されると子どもたちは興味深く観察や質問を行っていました。



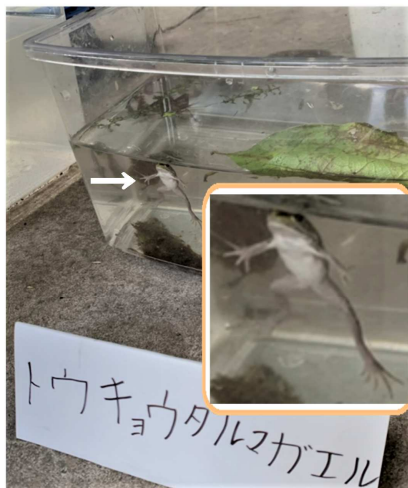
紙を一枚ずつめくって、紙芝居風の説明をする大平充講師(中央)

トウキョウダルマガエル、ドジョウ、オイカワなど大漁

今回捕獲できた生き物には、魚類のドジョウやオイカワ、甲殻類のヌマエビやアメリカザリガニ、貝類のタイワンシジミやカワナナ、両生類ではトウキョウダルマガエルなどがありました(終了後には放流)。

なかでもトウキョウダルマガエルは準絶滅危惧種に指定されておりますが、手に吸盤を持たないため壁などを登ることができないといった身体的特徴や鳴き声の特徴について大平講師より解説がありました。外見の可愛さも相半ばし、子どもたちに大人気でした。

また、今年5月の外来生物法改正により規制の対象となったアメリカザリガニの取扱いについても触れられました。アメリカザリガニが増殖することによる生態系への影響が説明され、捕獲して自宅等で飼育する場合には、自然に戻さず最期まで飼育するようアドバイスがありました。



準絶滅危惧種のトウキョウダルマガエル。右の写真は、白矢印の先のトウキョウダルマガエルを拡大

ハケ散策と昆虫類の採取、観察

30分ほど観察会を行った後は、あづま屋を出発点としてハケ下から西府町湧水(東京の名湧水57選)の階段を登り、西府文化センター前を通過し再びあづま屋に戻る約1時間のルートを、崖線特有の動植物や地形について説明を交えながら散策し昆虫類の採取と観察を行いました。参加者は

各自、虫取り網と虫かごを持ち、子どもたちは目を輝かせながら夢中になって昆虫を追いかけていました。

ハケ下、湧水、ハケ上の各々で、観察できる昆虫類や植物が異なり、その変化を体感することができます。昆虫の王様と呼ばれるカブトムシの姿は見ることができませんでしたがハグロトンボやミヤマアカネ、チョウ類、カナブン類、アブラゼミ、ショウリョウバッタなど、例年よりも多く合計33種類もの昆虫を捕獲できました。

最後はエレベーター前の市民花壇にてジャコウアゲハの幼虫やサナギと、ジャコウアゲハの食べ物であるウマノスズクサの観察を行い、子どもたちは物珍しそうな表情で観ていました。

散策後、再度あづま屋前に集合し、捕獲した生き物の報告をもって野外観察会は無事終了しました。

恐怖心に好奇心が勝つ・・・

大変暑いなかでの開催となりましたが、子どもたちはその暑さも忘れ、いつまでも虫取りをしたり、威嚇するザリガニを掴もうとチャレンジしたり、恐怖心に好奇心が勝ってカナブンを触ったりしていました。

子どもたちのたくさんの笑顔を見られたことが、何よりの成果といえるかもしれません。今回の活動が子どもたちの原体験となり、自然に対して興味関心を持つきっかけとなることを願いながら、今後も継続的に活動を行って参ります。



「東京の名湧水57選」の前で水遊びする子どもたち。サワガニもいました。水温は1年を通して約17℃

2022田んぼの学校／2 回目

稲の観察、田んぼの生き物さがし

稲の観察

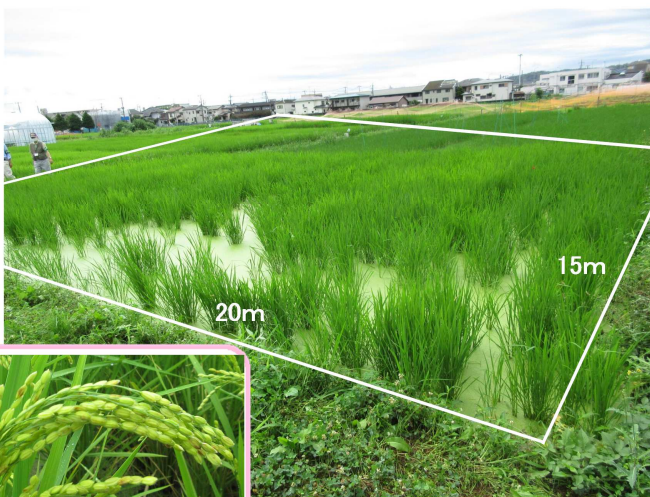
「田んぼの学校」の2回目として、「稲の観察、田んぼの生き物さがし」が東京農工大学本町農場において7月17日(日)9:00～10:50に開催された。

心配された天候は開始前に小雨がパラつき、受付場所をハウス内に移動したが、その後は回復し「稲の観察と田んぼの生きものさがし」に相応しい好天候となった。最高気温は30.7℃と、特に暑くはなかった。

まず、稲の観察は前回田植えをした場所に全員が集まった。まだ、青々とした稲をみんなが眺め、田んぼの水位から40cmくらいに生長した稲を生徒はしげしげと見つめていた。「これがいつも食べているご飯？」と不思議そうにつぶやく子もいた。



5月29日に植えた稲の観察をする生徒とスタッフ



⑤⑥は稲穂が頭を垂れた小写真
田植えから1か月後の8月17日撮影

田んぼの学校(2022) 7月17日撮影

田んぼの生きものさがし

つぎの、田んぼの生きものさがしは、開始直前の小雨もあって、まだ物陰に潜んでいる状態だったので、昆虫はバッタくらいしか見つからなかった。しかし、この雨によって子ガエルは元気に飛び跳ねていた。それを追いかける孫に、「～ちゃん、待ってくれ！」と、付き添いの祖父も少々お疲れのようだった。



バッタ、捕まえたよ！



カエル、捕まえたよ！

参加者と時間配分

なお、当日の参加者は52名。その内訳は生徒18名、保護者等18名。スタッフは府中かんきょう市民の会の9名、東京農工大「耕地の会」の学生5名、市役所関係が2名だった。以下は時間配分。

- ①～8:30～…検温、受付、バケツ稲相談
- ② 9:00～…スタッフあいさつ、ストレッチ
- ③ 9:05～… 稲の生育状況観察
- ④ バケツ稲観察
- ⑤ 9:10～10:20～ 田んぼの生きものさがし
- ⑥～10:50 帰宅準備、稲刈り時の案内後、解散

次回は、台風の影響で10月2日に延期

次回の「稲刈りとはさ掛け」は台風の影響で9月25日(日)が中止となり、10月2日(日)となった。1回目の田植え、2回目の稲の観察をおえて、次はいよいよ「稲刈り」である。

筆者が、稲の観察(7月17日)から1か月後の8月17日に田んぼに行ったところ、左の小写真のように稲穂の頭が垂れていた。間もなく、豊穡(ホウジョウ)の秋をむかえ、あたり一面が黄金色に輝くのだろう。

ちなみに、「実ほど頭を垂れる稲穂かな」という五七五形式で表現したことわざがある。これは、優れた人物ほど「謙虚さ」を持ち合わせているという意味だ。稲は、日本人にとって最も身近な作物であるから、比喩としては大いに説得力がある。

(葛西利武)

府中町農園塾

自然の恵みに感謝

鈴木淳佑

9月16日9時30分撮影

府中町「農園塾」は、府中町3丁目桶久保公園に隣接している当会とJAマイズが協働で始めた農園になり、今年で4年目を迎えます。農地は個人区画(5m x 6mの6区画)と共同区画(5m x 9mの2区画)で構成されており、会員の農に関わる人材の育成と農業技術の向上を目的としています。

定番野菜から希少野菜まで

現在参加している会員は14名で、ジャガイモやタマネギ、トマト、エダマメ、ダイコンなどの定番野菜から、マクワウリ、白ナス、ヤーコン、京芋などのスーパーでは見かけない珍しい野菜の栽培をしています。具体的な活動としては、毎週金曜日の9時から塾生が集まり、共同区画の耕作、植付け管理や農地周辺の下草刈り作業をしつつ、個人区画の栽培管理をしています。

昨年に塾生が活動中に逝去されたことを教訓とし、なるべく一人で作業は行わない、登園する際は会員や身内に連絡をするなどの安全対策を実施し、さらに7月からは熱中症警戒アラートが発令される猛暑日に畑作業は行わないなどの対策をしながら活動を続けています。

切り替え時季と重なり、超多忙！

共同区画は鈴木利雄さんをリーダーとするAチーム、安藤良則さんをリーダーとするBチームで編成され、栽培計画や栽培方法などの意見を出し合いながらチームそれぞれの特色が現れた農地となっています。



塾生の全員集合写真。前列⑤の鈴木淳佑さんと⑥から3人目の竹田勇さんが寄稿者

今年は3月の土作り、4月の種まき、5月の豊作だったじゃがいも収穫から始まり、一気に彩りと活気に溢れた夏野菜は大きな害虫被害や病気被害にあうことなく見事な収穫を続けており、お盆過ぎから現在は秋冬野菜の切り替え準備と、一番の繁忙期を迎えています。

私は昨年2021年の途中から農園塾に加入し、前任者の個人区画を引き継ぐ形で今年度から本格的に活動しております。ベランダ菜園程度の知識しかなかった私に先輩方が毎回親切にご指導いただきながら立派な夏野菜を収穫できました。栽培することの苦勞を知るとともに自然からの恵みに感謝しながら毎日のように食卓に並ぶ野菜を美味しく頂けることに幸せを感じております。

JAマイズと協働

「農園塾」開設から、はや4年！

竹田勇

府中町3丁目にJAマイズと協働で始めた「農園塾」もはや4年が経ちました。その間、塾生が2人なくなりました。水源がない状態でしたが、塾生の約半数がアグリカレッジ(東京都立農業高等学校が運営)出身のベテランで、協力し合い各種の野菜を栽培してきました。ちなみに、塾生の平均年齢は70歳を超えています。

- 塾生/個人区画に12人、共同区画に12人+3人
- 役員/塾長 小西信生、副塾長 鈴木利雄 竹田勇
会計 川寄英雄
- 登塾日は原則第1金曜日、必要な時はいつでも可
す。農業資材は共同使用可ですが、個人区画の種
苗を除きます。

市内では60種近く、当塾では20種ほどの栽培

私は植物防疫の専門家ですが、農薬を使わずに過ごしてきました。それが出来たのは防虫花類(菊、金魚草等)との混植などで繁殖を抑えていたからです

市内で生産されている主な農作物は58種類です。詳細は、第4次府中市農業振興計画(令和4年1月発行)の第2章府中農業の現状と課題の「概況」に記載されています。

この農園塾では、エンドウマメ、ジャガイモ、タマネギ、キャベツ、レタス、インゲン、エダマメ、オクラ、ハクサイ、ダイコン、ナス、シシトウ、ピーマン、シュンギク、トマト、キュウリ、カブ。変わった物として白ゴマ、マクワウリ。番外として皇帝ダリア、白菊の計20種程を栽培しています。

私は作物を自宅で食し、近くに住む息子や娘たちにも上げています。やはり、自分が丹精込めて作った野菜には特別なものがあります。



農作業中の塾生。⑤は編集人がいた、いたナスとシシトウの「塾生の幸」 9月16日撮影

農園塾の概要は以下

- 個人区画(5m×6mの6区画)と共同区画(5m×9mの2区画)計270㎡

市民協働
(NPO・事業者・市)

府中崖線を歩き、「緑地保全」のあり方を知ろう！

当会が「市民協働まつり」に際して、独自に企画したものを文化の日の11月3日(木)に実施します。

今年の市民協働まつりの会場開催は11月26日(土)～27日(日)、オンライン開催は11月1日(火)～27日(日)です。

当企画は元々、夏休み特別企画(7月31日)として開催を予定していましたが、当日はコロナ禍と天候(熱中症)の問題もあってやむなく中止としました。

NPO・事業者・府中市による3者協働

しかしながら、本企画の主題は、府中かんきょう市民の会(NPO)、第一造園(事業者)、府中市(市)による3者の「市民協働」ですから、「市民協働まつり」にあわせて再度開催することになりました。

最初に訪れる本宿町緑地では、事業者と市からの講師2人がお話しをします。その後も、府中市の「歴史・自然遺産めぐり」ともいえる西府崖線での秋の散策を楽しみたいと思います。親子での参加大歓迎！

なお、2014年～2019年(2020年、2021年はコロナ禍のため中止)の6年にわたり、おもに祝日・文化の日(11月3日)に開催している「歴史・自然遺産めぐり」は、今回で7回目となります。

「歴史・自然遺産めぐり」散策コース

本宿町緑地の保全活動紹介(講師2人のお話し)→カッパ池→日新町花壇(ジャコウアゲハ友の会のお話し)→あずまや(㊦写真)→西府町湧水(東京の名湧水57選)→西府町湧水池→西府町緑地→西府町緑地花壇→御嶽塚古墳(歴史遺産)→JR西府駅前解散



紅葉が錦の織物のように美しい錦秋の「あずまや」周辺。手前の市川用水は落ち葉でおおわれている。ここが、当会の活動拠点

「市民協働まつり」連携企画の詳細

☆テーマ／府中崖線を歩き、

「緑地保全」のあり方を知ろう！

☆日時／11月3日(木・文化の日) 9:15～11:30

予備日4日(金)

☆集合／JR南武線 西府駅改札口前 9:15

☆対象／市民20人先着順。保険料、資料代(7点)込みで500円。18歳以下無料

☆講師／①公園緑地課(課長補佐) 須田茂也氏
「緑地保全のあり方」

②第一造園(株) 仁平(ニヘイ)豊彦氏
「崖線の土留めと選択除草」

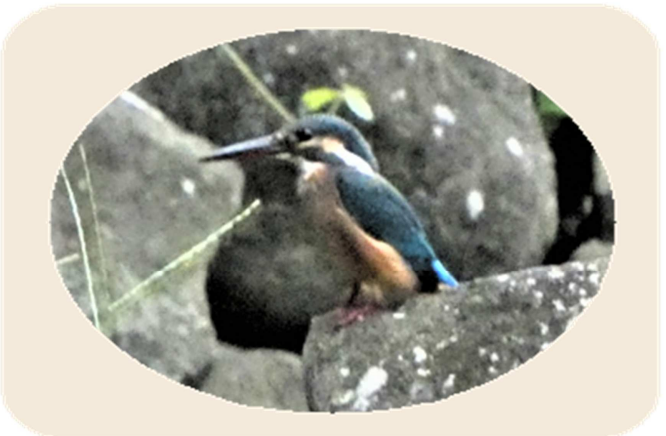
☆申込み／葛西までTel.090-5564-5838

㊦募集記事を「広報ふちゅう10月21日号」にも掲載するため、電話受付は10月21日の9:00からとします。

☆その他／長袖、帽子、マスク、飲み物など



ミヤマアカネの逆立ち。陽の当たる面積を減らし、暑さをしのぐ。大山道手前の用水にて



「清流の宝石」とも言われるカワセミが小魚を狙っている。カッパ池にて

㊥ミヤマアカネ／2022年7月1日9:09 ㊦カワセミ／同年9月6日6:41。撮影は早朝、いずれも田中香代子さん

会員募集中

当会は西府崖線保全活動、田んぼの学校、小学校の環境学習、援農ボランティア、府中町農園塾、環境調査(大気、湧水)、多摩川水質調査、公園清掃など様々な活動を行っています。興味のある方は下記へご連絡ください。Tel.080-5646-5524小西まで

(葛西利武)